

健軍校区

社協だより

第37号

〈編集発行〉
健軍校区
社会福祉協議会
〈印刷〉
太陽社



教育改革は地域から 〜今、思うこと〜

熊本市教育委員会 教育次長

三原 悟

本市の教育は、まず徳育の充実に掲げている。健軍校区自治協議会は、「教育改革は、地域から」をテーマに検討を重ね、「六つの願い」を完成された。これは、まさに道徳教育改革を地域から発信された手本となる。「六つの願い」として示された「孝行、謙遜と朋友の信頼、博愛と友愛、修学と知能啓発、教育と社会貢献、順法」は、今の日本人が失いかけている大切な心であり、学習指導要領にも取り上げられている珠玉の言葉である。それを先取りし、地域から起こしていくという発想に、心から尊敬の念を抱くところである。

さて、私は次の三人の生き方に道徳教育の礎を見ている。

一人目は、池波正太郎作「鬼平犯科張」の主人公、鬼平こと長谷川平蔵。「善人が何かのはずみに悪事に手を染めることはよくある事で、悪人が何かのはずみに他人に善を施したりすることもある。人間というのは不思議な生きものよ。」という名台詞がある。

現に、問題行動を繰り返す子どもがよいことをすることがある。そこを的確に褒め、子ども心を変える、そこには相手に対して「愛」があるか否かが鍵である。

二人目は、室町の能役者、世

阿弥。名著「風姿花伝」の中に、「離見の見」という言葉を残し、自分の見る目が観客の見る目と一致することを伝えている。また、「目前心後」という言葉も残している。評価には、自分を突き放し、客観的にとらえることが必要であるということ、自分よがりではない三百六十度の評価が大切である。

三人目は、元禄生まれの美濃商人、永田佐吉。「私の佐吉」と呼ばれ、欲を抑え、いつも人のために働き、そしてそれを誇示しない生き方をした。生涯、他人に道を譲り続けたとしても、曲げた距離の合計は百歩にも満たないほど小さなものであるという意の「終身譲路、不枉百歩」（しゅうしんみちをゆるも、ひゃっぽをまげず）に通じるものがある。

我が国は、世界と比べるとまだまだ格調が高い国である。東日本大震災が起きた時の日本人の行動は各国から賞賛された。このような日本人の道徳性は、先に述べたような三人の生き方にあると私は考える。人生の道しるべとして、いつも心よりどころにしたい。

目次

- ❖ 教育改革は地域から
〜今、思うこと〜
三原 悟 …… 1
- ❖ 立ち直りを支える
地域の手カラ
多田隈純子 …… 2
- ❖ 私の本棚 …… 2
- ❖ 世界少年野球大会に
出場して …… 3
永田晃祐
- ❖ 健軍校区乳幼児と
高校生の
ふれあい体験について …… 3
- ❖ ちびっこまちづくり相撲 …… 4



「保護司?」

「保護司とは何をする人ですか?」

保護司は、罪を犯した人や非行のある少年の立ち直りを地域で支えるボランティアです。その主な職務には、保護観察を受けている人と面接を行い、指導や助言をすること、刑務所や少年院に入っている人の帰宅先の生活環境を調整すること、

地域の「チカラ」を推進することとしていきます。

実社会の中で罪を犯した人達の立ち直りを助けるのは地域社会です。これらの人々が、自立し更正するよう手助けをし、住みよく、安心して暮らすことのできる地域社会を築かなければなりません。

熊本地区保護司会第八分会



立ち直りを支える

地域のチカラ

熊本地区保護司会 第八分会長

多田 隼 純子

犯罪を予防するために啓発活動を行うことなどがあります。

七月の強調月間で行う社会を明るくする運動(社明運動)

は、すべての国民が犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更正について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。

今年、「立ち直りを支える

でも、社明運動を行っています。が、特に六年前から健軍商店街で国祭り太鼓を先頭に、更生保護女性会、防犯協会、保護司の約60名でパレードをして啓発活動を行っています。

八分会は、11小学校区(画図、健軍、泉ヶ丘、若葉、秋津、尾ノ上、東町、健軍東、桜木、桜木東、山ノ内)を包括する地域です。11校区を担当する保護司は現在29名で、事件数は保護観

察・環境調整との総数で58件です。

ここ健軍校区での保護司5名の担当状況としては、窃盗・暴走族等の少年の保護観察が4件、環境調整が3件、合計7件となっております。

この数字を見る限り、健軍校区は、まだまだ環境が良いとは言えません。

安全で安心して暮らすことのできる社会の実現はすべての人の願いだと思います。そのような社会を築くためには、罪を犯した人や非行のある少年が、再び犯罪や非行をすることなく、社会の一員として立ち直れるように支えること、また犯罪や非行が発生しないような地域社会を築いていくことが重要であります。

地域の人、一人一人と手を取りあって、住みよく安心して暮らすことができる地域社会を築くよう共に努力していきたくと思います。

「地域のチカラ」皆様のご協力のほど、よろしくお願い致します。



本を読むことは生きていく指針であり智恵でもある。

◆ 生きることば

： 瀬戸内寂聴

幸せはあなたの心の中に

◆ 老いの才覚

： 曾野綾子

基本は「自立」と自律

私の雑感

年齢を受け入れ、老いに不満をもたず楽しく生きることをモットーにめざしたいものです。

- 一、日々健康に留意する
- 一、何事にも感謝の念を
- 一、多様な人と接し

感性を磨く

※ なりゆきに随う是も非も忘れねば見ゆるもの
そっと心にしまふ

(田川)

僕は世界大会に出場して、たくさんの方の事を学びました。日本代表合宿や、世界の代表チームとの試合を通じて、レベルの高い野球の技術や姿勢など、もっと自分も努力をしなければと思いました。また、アメリカのホストファミリーの方々は、とても優しく明るい方ばかりで、言葉が通じない中でも、すぐにうちとけることができました。アメリカの素晴らしい環境の中で、日本の代表の一員としてチームに貢献できた事、そしてワールドチャンピオンになれた

湖東中一年 永田晃祐

世界少年野球大会に出場して



た経験は、僕にとって一生の宝物になりました。そしてこの世界大会に出場できるチャンスを与えていただいた事や、僕を支えて下さった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。学校関係の方々、町内の方々など、僕のためにたくさんの方々が応援して下さいました。本当にありがとうございました。

僕はこれからも何事にも感謝を忘れず、今の自分に満足しないように日々努力していこうと思います。「今、自分のできる事は何かを考える」という教訓を心に留めて、前へ進んでいきたいです。

我が町の状況

(1) 概要

項目	数値
人口	12,563 人
世帯数	5,668 世帯
平均世帯人員	2.21 人
出生数	129 人
児童数	722 人
高齢者数 (65才以上)	2,805 人
高齢化率	22.33 %
15才以下人口	1,818 人
15才以下比率	14.5 %

(2) 健軍校区の人口割合 (平成23年10月1日現在)

	14才以下	14才~64才	65才以上	合計
男	970 人	3,751 人	1,145 人	5,866 人
女	848 人	4,189 人	1,660 人	6,697 人
計	1,818 人	7,940 人	2,805 人	12,563 人
比率	14.5%	63.2%	22.3%	100%

(3) 健軍校区の介護認定数 (平成23年9月30日現在)

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
64歳以下 (男)	3	1	0	0	0	0	0	
(女)	2	0	2	2	0	0	0	計 10
65歳~74歳 (男)	0	1	1	1	2	0	3	
(女)	8	1	3	6	1	2	0	計 29
75歳以上 (男)	13	17	19	19	13	7	4	
(女)	41	33	42	31	22	15	7	計 283
	67	53	67	59	38	24	14	322

健軍校区出生数 129 (H22.10~H23.9)

今回のふれあい体験は、自分を見つめ直すいい機会にもなりました。私もきっと将来お母さんになる時が来ると思います。その時に、こうして高校生や地域の方々とふれ合う機会があれば、きっと安心して子どもを育てることができると思います。そのためには、もっと小さな子どもとふれ合って、いろいろなことを体験して知っていく必要があると思いました。(高1女子)



このふれあい体験を企画して下さい、ありがとうございます。普段の生活の中で僕達が体験できないので、大変貴重な体験になりました。僕が将来、子供を持つことになったら、母親だけに任せるのではなく、育児に関心を持って、積極的に行っていきたいなあと思いました。そして、これからも子育て、子どもと一緒に遊んだりすることを頑張ってください。(高1男子)

僕は将来大人になって、子どもをつくるかわからないけれど、今回の体験をもとに、育児の大変さなども知りつつ育児をしていきたいと思いました。今回はほとんど一人の赤ちゃんにつきっきりで、ほかの赤ちゃんたちとふれ合うことができなかったため、また機会があれば、ほかの赤ちゃんともふれ合いたいと思います。(高1男子)

健軍校区乳幼児と高校生の ふれあい体験について

健軍校区子育て支援ネットワーク会
会長 光永和博

地域乳幼児とのふれあい体験について、健軍校区子育て支援ネットワーク会の提案で、マリスタ学園高校一年生 34 名と健軍校区子育てサークル(めだかクラブ)親子 7 組のふれあい体験が実現しました。その目的は、育児の楽しさや生命の大切さを実感するとともに、人への思いやりや子どもへの関わり方など学ぶ機会とする。というものです。

その後には反省会や感想の報告(参加者全員)があり、その一部をここに載せます。

僕が将来したい事は「人を助ける仕事」で、犯罪から守ったり、危険から守ったり、人の命を守ったりすることです。それから、今日の体験をして思いついたものがあります。それは「子どもの未来を守る」ことです。ちょっとクサイかもしれないけれど、やってみたいと思います。

(高1男子)

僕は、このふれあい会があるまで、はっきり言って小さい子は苦手でした。でも今日のふれあい会で小さい子どもが好きになり、もっともっとふれあいたいと思いました。今後このサークルと、無事元気に子どもが大きくなりますよう願っています。

(高1男子)



私は結構赤ちゃんや小さな子と接することは好きですが、実際に身近に小さい子を育てている人がいると、やっぱり大変なことが多いように感じます。でもその分、ちゃんとうれしいことや楽しいこともたくさんあると思います。今日の体験を通して、普段はなかなか接することもできない赤ちゃんや遊んだり、実際にお母さん方のお話を聞いたりして、いつもとは違う刺激も受けました。(高1女子)

お母さんの話を聞いてると、子育ては今が一番大変そうな時期らしいので、やっぱり子育ては難しいと思いました。常に子どものことを気にしながらの生活が続くので、ほくは将来子どもが出来て、子育てをしなれないといけなくなったら、一人に任せすぎないように、自分も頑張って子どもとふれ合おうと思いました。

(高1男子)

今日の体験を通して、赤ちゃんやふれ合うことにより、子育ての大変さややりがい、また、今の社会の問題点について知ることができました。そして何より、元気いっぱい赤ちゃんたちにパワーをもらいました。このような貴重な体験ができて本当に良かったです。計画して下さいました先生方、めだかクラブの皆様、その他関係者の方々、そして何より赤ちゃんや保護者の皆様、本当にありがとうございました。

(高1男子)



●●●●● めだかサークルの感想 ●●●●●

生徒たちにとってはとっても良い機会だったと思いますし、私も今の生徒がどれくらい赤ちゃんに触れていないか、またどんな風に接するのかわかって良かったです。

このような交流ははじめに見ましたが、とてもいいなと思いました。高校生の表情がとっても良かったです。赤ちゃんのかわいさ、命の大切さを知るためにもっとこのような交流が増えていいと思います。保育園の園児との交流もいいかと思います。

子どもと向き合う高校生の表情が良かったです。20数年前、我が子を抱きしめあやしたことを思い出しました。高校生と1歳未満児の子とのふれあいは両方、そしてお母様たちにも良い体験になったと思います。



地域乳幼児とのふれあい体験は、生徒たちにとっては楽しいひとときだったと思います。でも多くの生徒に囲まれた子どもたちは戸惑っていました。全体的なふれあいから部分的にやっていくとお互いにリラックスできたように思います。

あまり、乳幼児と触れ合ったことがないので、慣れるまでに時間がかかるようでしたが、めったにない機会なので楽しかったです。質問が少なかったのも、もっと聞いてもらえればたくさん答えてあげたのになあと思いました。

日ごろ赤ちゃんとは接したことのない高校生たちの困惑した表情から、段々となれて笑顔になってきてとてもいい体験になったことと思います。

マリスト学園の生徒さんはほんとにフレンドリーで、子どもたちがすぐになじんでいました。学園の先生方の指導が素晴らしいのだと思います。

親も良い体験ができてよかったです。子どもがなかなかなれなかったが、子育ての大変さが反対に分かってもらえるとありがたい。私の方がもっと伝えたかったことが伝えられず残念でした。

私たち親子も普段高校生の方々と関わる機会がないので、貴重な経験をさせていただきました。自分も子どもを産むまでは若い子どもと接する機会がなく、最初は子どもがいる生活には戸惑いました。なので、このような機会があることはとても良いと思います。

高校生のみなさんととても素直だと思いました。現代少子化の中、子育ての大変さ点ではお母さん方も大変だと思えます。子どもさんともとても人見知りなく楽しませていただきました。





ちびっこまちづくり相撲 第十二回大会

平成 23 年 10 月 29 日健軍神社境内相撲場の土俵上において芳東を迎えて、ちびっこまちづくり相撲大会が開催されました。

平成 10 年より再興しました宮相撲も今年で 12 回目を迎え、健軍小学校をはじめ各地からちびっこが参加しました。当初からの目的である「まちづくり」や「地域活性化」の一躍を担う原動力になればと思っています。



ご芳志有難う
ございました

平成二十三年六月以降、次の方から健軍校区社会福祉協議会に対し、多額の香典返しのご寄付をいただきました。浄財は地域の福祉事業推進の為、有効に活用させていただきます。
ここに紙面をお借りいたしましたして厚くお礼を申し上げます。

◇川上さき子様

健軍四丁目十七ー四九

◇北村 信子様

健軍四丁目八ー四〇

◇宮本 芳枝様

錦ヶ丘十九ー十一

◇富田ヨシ子様

健軍一丁目十六ー二

編集後記

「軽くぶつかったくらいだと思っただ。でも、その代償はとて重かった。自転車も車です。」
こんなCMを目にした方も多いと思います。気軽な移動手段として、私達が日常使用している自転車の乗り方が問われています。

特に、携帯電話を操作しながらの走行や、音楽用ヘッドホンを着用しながらの走行には腹立たしささえ感じます。

更に、ブレーキなしの競技用自転車を乗り回している人もいると聞くと、言語道断と言わざるを得ません。

幸せな地域社会の根幹は「安心・安全」です。取り返しのつかない事故を引き起こす前に、今一度、自転車の乗り方を真剣に考えましょう。

(細野)